

2024年3月6日

各位

会社名 株式会社 坪田ラボ
代表者名 代表取締役社長 坪田 一男
(コード番号：4890 東証グロース市場)
問合せ先 執行役員管理本部長 清水 貴也
(TEL 03-6384-2866)

令和5年度 TOKYO 戦略的イノベーション促進事業における助成事業への採択について

この度、当社（代表取締役 CEO・坪田一男）が取り組んでいる「網膜色素変性症に対する革新的医療機器の開発」が、公益財団法人東京都中小企業振興公社より、令和5年度 TOKYO 戦略的イノベーション促進事業における助成事業として採択されましたので、お知らせいたします。

【採択された開発の概要】

網膜色素変性症は、眼球の中で光を受容する組織である網膜に異常をきたす遺伝性、進行性の疾患であり、未だ有効な治療法が確立されていない、難病指定を受けている疾患です。進行すれば失明に至ることもあり、網膜色素変性症は現在日本における成人視覚障害の第2位となっています。

当社では、慶應義塾大学医学部眼科学教室網膜老化生物学研究室の伴紀充講師との共同研究により、バイオレットライトによる網膜色素変性症への新しい治療法の可能性を見出しました。本助成事業の活用により、網膜色素変性症への応用に向けた非臨床研究による有効性・安全性の検証とそれに基づくヒトへの特定臨床研究に取り組んでいく予定です。従来の創薬や再生医療のアプローチとは異なる、日本発のバイオレットライト技術を基盤とし、異分野的な発想を活かした医療機器の開発をします。

詳細につきましては、公益財団法人東京都中小企業振興公社のホームページをご参照ください。

https://www.tokyo-kosha.or.jp/support/josei/rmepal000000cd6-att/R5_innovation.pdf

【TOKYO 戦略的イノベーション促進事業における助成事業の概要】

① 目的

都内中小企業等が「イノベーションマップ」(※1)に基づき、自社のコア技術を基盤として、他企業、大学、公設試験研究機関等、社外の知見やノウハウを活用して事業化を目指す技術・製品開発を支援することにより、都内中小企業等の成長産業分野への参入を促進し、東京の産業の活性化を図る。

(※1) イノベーションマップ：

東京が抱える課題を解決するため、成長産業分野における開発支援テーマと技術・製品開発動向等を

示した技術開発指針。東京都が策定。

② 助成内容

都内中小企業等が、イノベーションマップに基づき、他企業、大学、公設試験研究機関等と連携し、それらの技術・ノウハウを活用して取り組む技術・製品開発に要する経費の一部を助成するとともに、連携コーディネータによるハンズオン支援を実施。

- ・助成対象期間 令和6年（2024年）1月1日から令和8年（2026年）12月31日まで（最長3年）
- ・助成限度額 8,000万円
- ・助成率 助成対象と認められる経費の2/3以内
- ・助成対象経費 技術・製品開発に要する経費の一部

【当社にとっての意義】

当社では、波長360～400nmの可視光であるバイオレットライトが近視進行抑制に有効であるとする慶應義塾大学医学部眼科学教室の研究及び特許を活用し、近視進行抑制メガネの開発を実施し、現在近視の学童に対して検証的臨床試験を実施しています。

最近の研究ではバイオレットライトが、網膜の下にある脈絡膜の血流を増加させる作用があることが判明しています（※2）。

近年では、特定の遺伝子変異による網膜色素変性症に対してウイルスベクターによる遺伝子補充療法が実用化されましたが、この治療法は特定の遺伝子変異に対してのみ有効であり、年間での治療対象者は網膜色素変性症の全患者の0.01%程度と予測されており、治療法としては十分ではありません。

これまで慶應義塾大学医学部眼科学教室網膜老化学研究室の伴紀充講師は、バイオレットライトの照射が、網膜変性モデル動物において治療効果を有することを確認しており、本事業で網膜色素変性症に対するバイオレットライトの効果を検証し、臨床応用に向けての第一歩を踏み出したいと考えています。

（※2）国内特許登録済み、海外申請中

【当社業績への影響】

本採択による本採択による2024年3月期の当社業績への影響はありません。また現時点では当社業績への影響も軽微であると考えております。今後開示すべき状況が生じた場合には、速やかに開示させていただきます。

以上